

未来へつなぐ陶芸—伝統工芸のチカラ展

Ceramics of the Past and of the Future: The Timelessness of Traditional Japanese Craft Arts

2022年4月5日〔火〕— 6月19日〔日〕

展覧会概要

戦後の日本の伝統陶芸の歴史的展開と未来への展望を、
137作家139点の作品で紹介！



図版No.1 展覧会ポスター

伝統的な陶芸の歴史をつくってきた日本工芸会陶芸部会の活動が2022年に50周年を迎えるのを記念して、伝統陶芸の活動の歩みと多彩な展開を紹介する展覧会を開催します。

日本工芸会の中でも会員数が最も多い陶芸部会は、1973年、重要無形文化財保持者(人間国宝)らの声掛けにより、会員の活動をさらに活性化させる目的で活動が始まりました。陶芸技術の保存と活用はもとより、先達たちが培った技術・技法への対応からさまざまなことを学び、それを糧として自身の想いを作品に映し出しています。

本展では、歴代の人間国宝の名品をはじめ、草創期に勢力を二分した日展や陶芸部会以外でありながら伝統の世界に刺激を与え続けている陶芸家の作品、さらには新進作家らの最新作を取り上げ、その歩みと未来へとつなぐ陶芸の技と美を137名の139点で紹介します。

展覧会のポイント

- ・歴代の人間国宝の全作品を展示紹介(各個認定のみで、団体認定は除く)。
- ・伝統陶芸の歴史をつくってきた公募展の受賞作・入選作が大集合。
- ・若い世代を中心とした近作・最新作から未来の伝統陶芸の姿を探る。

詳細は次ページへ

展示構成

第Ⅰ章:「伝統工芸(陶芸)の確立」

日本工芸会の初期の活動を支え、その存在を知らしめるきっかけとなった陶芸家の優品を展示し、伝統陶芸の神髄を紹介します。

出品作家／金重陶陽、加守田章二、藤本能道、松井康成、三輪休和ほか 19作家19点



図版No.2
松井康成 《練上嚙裂文大壺》1979年
茨城県陶芸美術館蔵



図版No.3
富本憲吉 《色絵金銀彩四弁花染付風景文字模様壺》
1957年 東京国立近代美術館蔵



図版No.4
荒川豊蔵 《志野茶碗》 1957年
東京国立近代美術館蔵

■column1:【伝統工芸(陶芸)と創作工芸(陶芸)】

日本工芸会と勢力を二分する日展の代表的な作家の作品を紹介します。

(出品作家／板谷波山、六代清水六兵衛、楠部彌弐 3作家3点)

■column2:【人間国宝(重要無形文化財保持者)の存在】

1955年に陶芸分野で初の重要無形文化財保持者となった4名の代表作を紹介します。

(出品作家／荒川豊蔵、石黒宗麿、富本憲吉、濱田庄司 4作家5点)



図版No.5
板谷波山 《葆光彩磁和合文様花瓶》1914-19年頃
MOA美術館蔵

第Ⅱ章:「伝統工芸(陶芸)のわざと美」

多彩な展開をみせてきた伝統陶芸の技と美の広がりをご紹介します。

出品作家／井上萬二、十三代今泉今右衛門、中島宏、吉田美統ほか 33作家33点

■column3:【産地と表現】

窯業地が育んだ独自の作風をご紹介します。

(出品作家／伊勢崎淳、市野雅彦、五代伊藤赤水、三代徳田八十吉、福島善三、三輪壽雪 6作家6点)

■column4:【茶の湯のうつわ】

伝統陶芸には欠かせない日本の文化を映す茶の湯のうつわをご紹介します。

(出品作家／加藤孝造、鈴木藏、徳澤守俊、波多野善蔵、樂直入 5作家6点)



図版No.6
吉田美統《釉裏金彩牡丹文飾皿》2017年
東京国立近代美術館蔵



図版No.7
五代 伊藤赤水《無名異練上鉢》1985年
東京国立近代美術館蔵



図版No.8
樂直入《焼貫黒樂茶碗 銘 遠遊》2012年
東京国立近代美術館蔵

第Ⅲ章 未来へつなぐ伝統工芸

伝統的な技術・技法を駆使しつつ現代という時代を意識して作品をつくり上げている
陶芸家の作品を紹介します。

出品作家／井戸川豊、十四代今泉今右衛門、鈴木徹、前田昭博ほか 57作家57点



図版No.9
十四代今泉今右衛門《色絵雪花薄墨墨はじき萩文鉢》
2019年 個人蔵



図版No.10
前田昭博《白瓷壺》2012年
東京国立近代美術館蔵



図版No.11
隠崎隆一《備前広口花器》2012年 個人蔵

■column5:【素材と表現】

新たな素材と独自の技法により導き出された作品を紹介します。
(出品作家:石橋裕史、隠崎隆一、神農巖 3作家3点)

■column6:【新たな技法とうつわのかたち】

現代という時代を作品に映し出し、これからの伝統陶芸の
可能性を予感させる作品を紹介します。
(出品作家／伊勢崎晃一郎、渋谷英一、中田博士、新里明士、
見附正康、室伏英治、和田的 7作家7点)



図版No.12
和田的《白器 ダイノ台》2017年
茨城県陶芸美術館蔵

開催概要

展覧会名(日)	未来へつなぐ陶芸—伝統工芸のチカラ展
展覧会名(英)	<i>Ceramics of the Past and of the Future: The Timelessness of Traditional Japanese Craft Arts</i>
会期	2022年4月5日[火]—6月19日[日]
会場	国立工芸館 〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2
主催	東京国立近代美術館、公益社団法人日本工芸会、 NHKエンタープライズ中部、北國新聞社
開館時間	午前9時30分～午後5時30分 ※入館は閉館の30分前まで
休館日	月曜日
アクセス	バスにて JR金沢駅兼六園口(東口)より 【北鉄バス】 3番乗り場：18系統に乗車、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分 7番乗り場：どの系統でも乗車可、 「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分 6番乗り場：乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩5分 車にて 北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。 近隣に文化施設共用駐車場(無料)があります。
観覧料	一般 900円 大学生 600円 高校生 300円 [団体料金](20名以上) [割引料金] 一般 600円 一般 800円 大学生 400円 大学生 550円 高校生 200円 高校生 250円 ※いずれも消費税込 ※キャンパスメンバーズ加入校の学生・教職員は、学生証・職員証の提示により団体料金でご鑑賞いただけます。 ○無料対象：中学生以下、障害者手帳をお持ちの方と付添者(1名) ○割引対象：石川県立美術館・金沢21世紀美術館・石川県立歴史博物館・ 石川県立伝統産業工芸館(いしかわ生活工芸ミュージアム)・ 金沢市立中村記念美術館・金沢ふるさと偉人館の主催展覧会入場券半券、 ならびにSAMURAIパスポート(一般のみ)を窓口で提示した方。
イベント	※決まり次第、ホームページにてお知らせいたします。
本展の特記事項	オンラインによる事前予約(日時指定・定員制)を導入します。 また若干数、当日券もご用意しています。 詳細は公式WEB(https://www.momat.go.jp/cg/)でご確認ください。
公式HP	https://www.momat.go.jp/cg/
掲載用お問い合わせ先	Tel: 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

広報用図版 一覧

No.	作品
1	展覧会ポスター
2	松井康成 《練上嘯裂文大壺》1979年 茨城県陶芸美術館蔵
3	富本憲吉 《色絵金銀彩四弁花染付風景文字模様壺》1957年 東京国立近代美術館蔵
4	荒川豊蔵 《志野茶碗》1957年 東京国立近代美術館蔵
5	板谷波山 《葆光彩磁和合文様花瓶》1914-19年頃 MOA美術館蔵
6	吉田美統 《釉裏金彩牡丹文飾皿》2017年 東京国立近代美術館蔵
7	五代 伊藤赤水 《無名異練上鉢》1985年 東京国立近代美術館蔵
8	樂直入 《焼貫黒樂茶碗 銘 遠遊》2012年 東京国立近代美術館蔵
9	十四代今泉今右衛門 《色絵雪花薄墨墨はじき款文鉢》2019年 個人蔵
10	前田昭博 《白瓷壺》2012年 東京国立近代美術館蔵
11	隠崎隆一 《備前広口花器》2012年 東京国立近代美術館蔵
12	和田的 《白器 ダイノ台》2017年 茨城県陶芸美術館蔵

■プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会広報のみにご使用ください。
 2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用後、画像データは消去してください。
 3. 画像は全図で使用してください。作品部分のトリミング、作品に文字を重ねることはできません。(背景は可)
 4. 画像を掲載される際には、貸出時に添付するキャプションをご記載ください。
 5. 掲載紙(誌)は、1部広報担当宛にご寄贈ください。web サイトの場合は、掲載時にお知らせください。
- ※画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。
- ※掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

オンラインより画像のお申込み、ダウンロードが出来るようになりました！

ご希望の方は当館ホームページの画像提供システムよりお申し込みください。

<https://www.momat.go.jp/cg/ncm-photo>



* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券(5組10枚)をご用意しております。
ご希望の方は画像申請の際に「その他」欄よりお知らせください。

報道関係のお問合せ先

国立工芸館 広報担当／藤田・小島

TEL: 076-221-1955(広報直通) FAX: 076-221-1969

E-mail: koge-pr@momat.go.jp 公式HP: <https://www.momat.go.jp/cg/>